

普段の暮らしに一工夫

ごみを減らそう

桑折町で出るごみの排出量は、平成30年以降、急激に増加し、全国と比較しても、高い水準で推移しています。ごみの排出量や、すぐに実践できるエコ活動を知り、普段の生活を見直しましょう。

データで見る ごみの現状（令和2年度）

桑折町全体の生活系ごみ排出量

3,468t

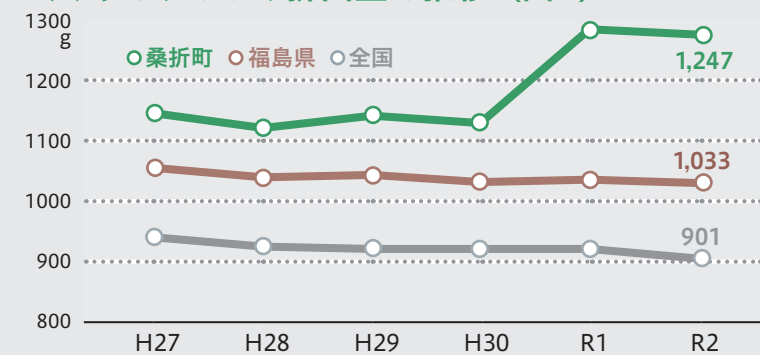
※令和元年度 3,367t

1人1日あたりのごみ排出量ワーストランキング（図1）

1位 富山県 1,039 g
2位 福島県 1,033 g
3位 新潟県 1,016 g
…
47位 京都府 785 g

※全国平均 901 g

1人あたりのごみ排出量の推移（図2）



資料：一般廃棄物処理実態調査（環境省）

ごみの排出量が増加

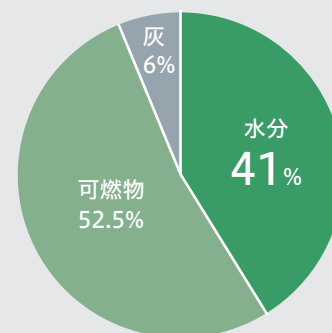
平成30年度以降、桑折町のごみの排出量が急激に増えていることは知っていますか。

福島県の1人1日あたりのごみの排出量は、1,033gと、全国でワースト2位の順位です（図1）。桑折町は、さらにその県平均を上回り、国内で見ても、ごみの排出量が多い地域のひとつとなっています（図2）。

排出量増加の要因

新型コロナウイルス感染症の拡大により、外出自粛が余儀なくされ、在宅時間が増えたことで、片付けごみやデリバリ・テイクアウトの保存容器などの家庭ごみが増加。さらに、令和3年2月と、今年3月に発生した福島県沖地震により、壊れた電化製品や家具などの災害ごみも増えています。令和2年の1年間に集まった粗大ごみは538tでしたが、翌3年は872tと、大幅に増加しています。

ごみの組成分析（図3）



資料：伊達地方衛生処理組合

一工夫でごみを減量

桑折町は、特にどの種類のごみが多いのでしょうか。伊達地方衛生処理組合のごみ組成分析によると、可燃ごみの3成分のうち、「水分」が約4割占めていることが分かります（図3）。これは、ほとんどが生ごみに含まれる水分量です。生ごみを捨てる際に、ぎゅつと絞って水を切ったり、三角コーナーで集めた生ごみを乾かしてから捨てたりするだけで、大幅にごみの量を減らすことができます。また、ごみの種類組成を見ると、「紙・布類」が最も多くなっています。古紙や雑誌は、可燃ごみとして捨てず、土曜日の古紙・紙の回収日や資源回収に出すことで、ごみの減量化につながります。

できることから始めよう

ごみの出し方教室



希望する各種団体に対して、ごみ収集業者や町職員が、ごみの出し方教室を実施します。実施を希望する団体は、生活環境課（☎582-2123）までご連絡ください。

アルミ缶回収



役場では、ごみの減量化のため、アルミ缶回収カゴを設置しています。集まったアルミ缶はリサイクル業者へ売り、売り払い料はSDGs推進事業費用に役立てています。

資源回収に奨励金



町では、自主的に資源回収活動を実施する団体に対して、回収量に応じて報奨金を交付しています。回収業者に売却した量1kgにつき5円の報奨金を交付します。

古着・小型家電の特別回収

町では、古着類と使用済小型家電の特別回収を行っています。4月に行われた際は、衣類約1,000kg、小型家電約500kgを回収。回収された古着類は、インドや東南アジアなどで再利用され、小型家電は、鉄や銀、銅、アルミなどに仕分けされた後、再利用されます。

次の特別回収は、9月17日（土）を予定していますので、ぜひご協力をお願いします。



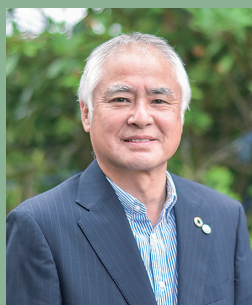
約130人が古着類や使用済小型家電を持参しリサイクルに協力。身近なところで、SDGsの取り組みに参加できます

生ごみの水切り

可燃ごみの約4割が水分で、そのほとんどが生ごみに含まれる水分量です。生ごみの水切りをすると、ごみの減量化ができ、指定収集袋の節約や、これからの季節、特に気になる悪臭の防止、ごみを燃やす燃焼効率が上がり、CO2削減にも貢献するなど、環境負荷低減の手助けとなります。今日からできる身近な一工夫がSDGsにつながります。



Interview



貴重な資源をリサイクル
中屋敷 熊谷孔隆さん
町内会では、年に1回、町内清掃と合わせて廃品回収を行います。各家庭で出た新聞紙やダンボール、鉄くずなどを軽トラで回収し今年も2,110kgを回収しました。令和元年からは、アルミ缶回収ボックスを町内会館に設置。年に3回もボックスが満杯になり、皆さんのリサイクル意識が高まっていることを実感しています。
SDGs推進の町の一員として、この取り組みを続けながら、普段廃棄しているごみは、貴重な資源として活用できることを、今後とも広めていきたいです。